練馬区子ども読書活動推進会議(第11期第三回)要録

日時：令和４年７月29日（金）　午前10時から午後12時まで
場所：光が丘図書館第一会議室

●参加者
〇委員（敬称略）
　林、木村、工藤、橋爪、関根、乾、内田、及川、河合、中村
〇事務局
　山﨑光が丘図書館長、松田子供事業統括係長、同係 渡邉、大塚、吉住、根本
　教育指導課 菅原サポート人材推進係長、同係 来住野、小林指導主事

●議事等
１　開会
　新館長の挨拶
　　委員の紹介
２　議題
(1) 第四次練馬区子ども読書活動推進計画　令和3年度実績について
(2) 乳幼児の読書活動の推進について
３　その他

●配付資料
資料１ 令和３年度「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」指標
資料２ 令和３年度「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」取組実施状況

●会議要録
〇事務局
　ただいまより、第11期第三回練馬区子ども読書活動推進会議を開催させていただきます。開会に先立ちまして、事務局のメンバーが新しくなりましたので、紹介いたします。

（事務局の自己紹介）

　それでは、座長、会議の進行をお願いいたします。

○座長
本日は、ご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。
それでは、次第に沿って議事を進めたいと思います。
まず、5/1付で前館長の清水優子が人材育成課長に異動となりましたことをご報告いたします。新館長として、山﨑直子が着任いたしました。新館長よりご挨拶させていただきます。

（館長挨拶）

続きまして、新しい委員の方の紹介をさせていただきます。

（校長自己紹介）

続いて、事務局より議題について説明をお願いします。

○事務局
事務局より議題についてご説明させていただきます。
今回は、昨年度の振り返りを議題とさせていただきます。資料を使いながらご説明をいたします。
まずは議題（1）の第四次練馬区子ども読書活動推進計画　令和３年度実績についてです。お手元の資料１、２は令和３年度の「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」における取組の実施状況です。本日は主に、議題にもあります「乳幼児の読書活動の推進」について、ご説明いたします。
まず指標について、資料１をごらんください。

（事務局説明）

つづきまして資料２「令和3年度「第四次練馬区子ども読書活動推進計画」取組実施状況」についてです。

（事務局説明）

○座長
事務局から説明がありましたが、議題（１）「第四次練馬区子ども読書活動推進計画　令和3年度実績について」、皆様のご質問等があればお聞かせいただ

ければと思います。
　ご質問などございましたら、ご発言をお願いします。
　委員お願いします。

〇委員
　資料１についてです。小・中学校の学校図書館の貸し出し冊数の差が大きいですが、これはどのようなことが原因でしょうか。

〇座長
　事務局いかがでしょうか。

〇事務局
　小学校は６年生で、中学校は３年生までのように生徒数が異なること、また、朝読書などの活動が活発であるため、差があるのではないかと考えます。

〇校長
　小学校は調べ学習や授業で図書館を利用する機会が多いので、貸し出し冊数が多くなっていると思います。また、読み聞かせ・休み時間等でも利用が多いいことが考えられます。

〇委員
　私の子どもは小学生ですが、借りてくる冊数が中学生とは異なるからだと思います。簡単な本だと１日で読んでおり、毎日２冊借りてきています。中学生とは１冊にかける時間が違うのではないかと思います。

〇委員
　中学生になるといきなり貸し出し冊数が少なくなりましたが、何か行動的な理由があるのでしょうか。学校によっては図書館が開いていないということがあるのでしょうか。

〇委員
　中学生は昼休みに外で遊ぶ子どもと図書館で過ごす子どもに分かれており、後者のような本が好きな子どもしか図書館に来ていないように思います。

○座長
中学生になると周りに合わせすぎてしまうという傾向があるのかもしれないですね。難しいところです。

○委員
どのくらい学校図書館が利用されているのか、17 校を対象に調査しました。小学校は定期的な図書の時間や、管理員がいる日は学校図書館を開放し、読み聞かせや本の貸出しが行われており、よく活用されていました。ところが、中学校では管理員が本の貸出しを行う日が月に 1､2 回であることが分かりました。中学では、授業で学校図書館がほとんど利用されていないのではないかと考えました。そうだとすると、この資料のような結果になるのは当然なのかなと思いました。むしろ、中学校もよく借りられているのではないかなと思いながら資料を見ていました。

○座長
開放時間の決定的な違いが大きいということですね。

○委員
質問があるのですが、学校図書館が開放している時の貸し出し数は、この資料の数値に含まれているのでしょうか。

○事務局
含めたものです。蔵書管理システムからもってきたものとなります。

○委員
練馬区の小学校の 65 校中 40 校は、図書館開放の活動をしていると存じておりますが、今教えていただいた数字は開放している学校と開放していない学校が、どれだけ貸し出しがされたかという条件で、この数字が見えてきたということですよね。私は小学校の図書館も開放の指導員もしていますが、継続する力はあると思っています。例えば、本を借りようとする子に「このタイトルだったら他にもこんなにあるよ」と伝えることができます。それで、貸し出し冊数が 1 冊から 3 冊になるチャンスがあったりする。しかし、中学校ではそのようなチャンスが少ないのではないのかなと思います。中学校も本と生徒を繋げてくれるような人がいれば、中学校の貸し出し冊数も増えてくるのではないかと考えます。

○委員
　ずっと図書館を開放されているイメージでしたが、開いている時間は限られているのですね。保健室登校みたいに、教室が苦手な子は図書館登校とかはできないっていうことですよね、中学校では。

○委員
　中学校で図書館司書を経験された方に、教室にいけない図書館登校をする子と知り合いになって、学校の様子が聞けて助かった経験を聞いたことがあります。毎日、図書館に人がいるという状態にすることが大事だとおっしゃっていました。しかし、残念ながら練馬区は週 2 日しか人がいないため、毎日、人がいる状態にすることで貸し出し冊数も変わってくるのではないかと思います。

○委員
　外国語絵本が増えたようですが、何語が増えたのですか。
　また、日本語を話すことができない方は、何語を話す方が多いのですか。

○事務局
　外国語絵本については、主に英語本が増えております。
　また、区内には中国・韓国出身の方が多いため、日本語を話すことが厳しい方は、主にその二つの言語を話す方が多いと思います。

○座長
　他に質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。
　続きまして、議題（2）の「次期練馬区子ども読書活動推進計画における乳幼児の読書活動の推進」について、委員の皆様よりご意見を頂戴したいと思います。事前に周知のあったとおり、①家庭読書に関すること、②第四次計画には記載のない、コロナ禍における読書活動について、③目標４「支援を必要とする子どもの読書活動の推進」および目標５「読書活動推進の基盤づくり」の乳児期に関わることについてお願いいたします。恐れ入りますが、各委員持ち時間４分程度でお願いします。

○委員
　私は、赤ちゃんや幼児と出会う機会が少ないところで活動していますが、ブックスタートで活動する方が周りに多くいらっしゃいます。ブックスタート事業が実施されていない時代に、私は子育てをしましたので、今の方たちが羨ま

しく思います。その理由は、一つの文化で行政の方たちと交わっていけることが良いと思ったからです。 悩み事をブックスタートで解決できたら良いでしょうし、他のお母さん達と交流できるところも良いなと感じます。このような外とのやりとりが増えることで、家庭読書に繋がるのではないかと私は考えます。

〇委員
ブックスタートの活動に関わった際、「お母さんに本を読んであげましょうということではないですよ」と伝えてほしいと言われました。ブックスタートが本に触れる機会となったら良くて、自ら本を読んだ結果が楽しかったとなるようなサポートをすることが大事なんだということも教わりました。
児童館の幼児向けおはなし会に関わっていて、絵本の紹介をしています。子どもたちの様子を見ていたお母さんが「うちの子も本が好きなんだ」と気づいたり、絵本を手に取り楽しんでいる様子が見られます。光が丘図書館の親子一緒のおはなし会では、図書館員が紹介した本をたくさんの親子が借りていきます。親子で一緒に本を楽しむ場所が大事で、それが家庭読書に繋がると思います。孤立しない環境は非常に大切だなと感じています。

〇委員
幼稚園でも本を読むのですが、子どもたちは本が好きだなと思います。しかし、家庭で読むかは差があります。ゲームができる環境にあるので、そっちにいってしまったりします。本のプレゼントは私の幼稚園でもしますが、読んだか聞くと読んでない子もいました。保護者は、「上手に読めなくて読んでない」と言っていましたが、「お母さんお父さんが読んであげることが子どもにとっては嬉しく感じるのです。寝る前とかに、お膝の上で読んであげてください。」と伝えています。私の子育てでは、そのようにしてきたら、難しい分厚い本を持ってくるようになりました。

〇校長
どの取り組みも実績に出ており、素晴らしいと思います。今では、男性の育児参加が増えてきており、多くの若い男性職員が育児休暇を取得しています。そのため、お父さんをターゲットにした情報発信があったら良いのではないでしょうか。また、出張おはなし会も良いなと思っていて、ママ友が何人か集まっている公園などに、気軽に出張しておはなしをする方がいれば夢があるなと思います。

○委員
　私は、お父さんの読み聞かせ活動をしていた経験があり、今もブックスタートのスタッフをしています。ブックスタートではお父さんの参加が増えたなと感じています。読み聞かせに自信がない方には、とりあえず読んであげるだけで良いんですよと言っております。
　そして、親子で楽しむ前に、まず保護者が楽しめるようになることが大事と考えています。自分の趣味から日頃の悩み、身体の不調など保護者自身の課題解決に繋がるものでも良いので、保護者が楽しむことができるようなご案内ができないものかなと思います。

○委員
　8年、15年前になりますが、ブックスタートに参加した頃を思い出しました。下の娘は一人で本をよく読み、上の息子は本を読まないのですが、息子は小さい時に本を読むのではなく、線路の上に走らせて遊ぶ子でした。息子とブックスタートに参加した際に、本が無料で配布されることに驚きました。息子は簡単な絵本だったら読む子にはなったかなと思います。
　青空の下での読み聞かせは、私も良いなと思いました。ブックスタートにも繋がると思うのですが、図書館が離れているところにあると、図書館に行くのも億劫になります。小さい子どもを抱えると荷物も多くなるので、行くのもなかなか難しいと感じていました。青空の下での読み聞かせは、平和台図書館でも行っていました。そういう取り組みもしている図書館があるんだなと思いました。

○委員
　私は、子どもがある程度聞き分けができるようになるまでは、図書館の本を利用しないようにしていました。お話の面白さを伝えたり、貸し出しではない形で利用しました。他のお母さんと交流したいと思い、子育てひろばを利用したこともありました。本自体が楽しいということだけではなく、コミュニティで繋がることが大きいと思っています。このような繋がりを売り込んではどうかと考えます。

○委員
　私は、乳幼児の読み書きかせに参加しています。読み聞かせで、赤ちゃんは声とかの音に反応してくれます。読み聞かせの会場で図書館の方が置いてくれた本に、大人が楽しめる本もあったらいいなと思いました。子どもが二歳の時、

入院していたことがあり、読み聞かせの方が病院に来てくれた際、涙が出るくらい嬉しかったです。そのような活動も大切だと感じました。

〇委員

私には四歳の娘と二歳の息子がおり、ブックスタートの恩恵を受けました。本がもらえることを嬉しく思い、手遊びなど様々な紹介を受けて良い機会となりました。また、ブックスタートで図書館を利用して、小さい子どもも図書館を利用して良いのだと思いました。乳幼児をもつ親としては、そのような機会からどのように本を読むことに繋げていくか、ハードルが二つあると思っています。子どもは静かにできず、大声を出してみたり走り回ったりします。お兄ちゃんは、本を読みたいと思うようになったみたいですが。子どもを二人連れて、一人で図書館に行くのは厳しい時があります。子どもが騒いで良い時間、青空のもとでおはなし会をするのも良いと思っており、もっと楽しく本を選べそうだなと感じました。二つ目は、子どもが本を舐めたり破ったりして本を大切に扱えない場合があることです。子どもは本を自分でめくりたい、持ちたい等の思いがあるみたいで読み聞かせをしようとしたら、そのような行動をするので、本を破ってしまって何回か弁償してしまったことがあります。子どもが本を壊した時に利用できる保険とかがないかなと探しましたが、ないみたいです。有料でも良いのでそのような保険があれば良いなと思います。継続して本を借りるということについてですが、行く際に子どもがあちらこちらに行ったりして図書館に行くのにもハードルが高いです。ドライブスルー形式とかで何才の子どもにはこの本ですよって渡してもらえるようなシステムがあると、子どもと本を借りに行きやすくなるのではないかと考えます。

私は、病気や障害がある子どもと接する機会が多いのですが、入院中の行動制限もあり、本にしか頼れない部分があるので門徒を広げていただくと良いな思います。また、練馬区の本の郵送サービスで障害者手帳の基準がありますが、障害者手帳をもらうまでに時間がかかります。そのため、本が借りにくいと困っている子どももいるのではないかと思いますので、柔軟に対応ができたら良いのかなと思いました。

〇座長

ドライブスルー形式、面白いなと思いました。

皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

何か、他にご意見やご質問等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

〇委員
　児童コーナーに大人用の本がありますが、利用者に伝わっておらず知らない方も多いのではないかなと思いますので、もう少し目立つようにすると良さそうだなと考えます。

〇事務局
　子どもと本のひろばにも大人用の本がありますが、委員の話をお聞きして、あまり知られていないのかなと思いました。図書館によっては、お子さんをお預かりして大人に本を楽しんでもらう取り組みを行うところもあります。

〇委員
　そのような取り組みを行う館が載っている一覧はあるのでしょうか。一覧があれば見逃して知らなかったということがなくなるので、良いなと思います。また、本もどこの図書館に所蔵されているのか分かりにくく感じます。

〇事務局
　図書館だより・ホームページでイベントのお知らせをしている形です。

〇事務局
　ホームページなど情報公開の仕方に限界がありますが、システムの改修時に改善や工夫をしていくことを検討し、図書館だよりでも分かりやすいものを発行できるよう工夫していけたらと思います。
　また、8月1日号の区報を皆様には楽しみにしていただければなと思っております。読書ノートとかもありますので、是非、お子さんと一緒にご参加ください。これからも、さまざまな方法で情報発信をしていきたいと考えております。

〇座長
　コミュニティで繋がることの大切さ、ルールの柔軟さ、障害者の方への柔軟な対応が必要だということですね。ありがとうございました。
　続いて、次第３「その他」に移ります。委員の皆様から何かございますでしょうか。

〇委員
　前回の会議で、委員さんから「よんでみようこんなほん」の表紙をもう少し変えると良いのではないかという意見をお聞きして、作る立場からしてなるほどなと思いました。表紙を今の子どもたちが好むようなデザインにすることが

できないものかという意見があったと文庫交流会で報告しましたら、その話について熱く盛り上がりました。そして、いろいろな意見が出ました。委員さん良い機会をくださり、ありがとうございました。

〇委員
子どもが、手に取りやすいものになったらいいなという意見がでました。

〇事務局
高学年になると、絵が子どもっぽいというふうになるのかなという意見がありました。また、一冊の本になると単価が上がって全員に配れなくなることや、グレード別になっていた方が持ち帰りやすいのかなということになりました。

〇委員
「よんでみようこんなほん」の低学年・中学年・高学年を、小学校の方で掲示されており、その中から多くの本を取り入れているようなので、子どもたちに還元できていて良かったなと思っております。

〇委員
どのグレードが多いとかはありますか。

〇事務局
全て同じです。

〇委員
「よんでみようこんなほん」の発行は年1回でしょうか。

〇事務局
はい、年1回の発行となっております。

〇委員
「よんでみようこんなほん」の選定で、たくさんの本が落選していてもったいなく感じました。

〇事務局
文庫や図書館で選書をしますので、かなり多くの本が上がってきます。
たくさんの本を読んで欲しいという思いで作成しているものです。

〇委員
　学校によっては、印刷して配布しているところもあるみたいです。図書室のどこにあるか、この本はないから区立図書館で借りる必要がある等の一覧を書いて出している学校もあるようです。

〇委員
　「よんでみようこんなほん」が年に数回発行されたらいいなと思います。
年一回がもったいないと思いました。

〇委員
　シーリーズものもあるので、ここから掲載している本以外にも繋がっていくのではないかなと思います。

〇委員
　私は、朝の小学校の読み聞かせに入っているのですが、「よんでみようこんなほん」が図書室にある時、私からお母さんにお渡しししています。読み聞かせをされている方がいて学校側の了承があれば、そのように配布していくことで、もっと広まるのではないかと思いました。
　質問ですが、ブックスタートのあり方について教えていただきたいところがあります。外国籍の方には、どのようなご案内をされているのですか？

〇事務局
　ブックスタートの外国語版でご案内しておりますが、様々な言語があるので全ての言語には対応できないことがあると思います。
　ブックスタートの参加者で全く日本語ができない方はあまりおらず、どちらかができる参加者がいるような印象です。

〇委員
　私は、外国籍の方にはひたすらゆっくり話すようにして対応しておりました。
　メッセージが伝われば良いのかなと思います。

〇委員
　読み聞かせは楽しんでいただいている模様でした。気になったのは、お配りする資料が説明だけなので、そこがどうにかならないものかなと思いました。
また、子ども家庭支援センターの冊子は、多言語化されているものがあれば良いのになと思います。

〇委員
　ブックスタートだけでなく、学校の方でも色々な配布物がありますが、サイズがそれぞれ違うので統一するのはどうかなと思いました。

〇事務局
　それぞれの配布物で伝えたいことの量も違いますので、統一はなかなか難しい課題ではあるなと思いました。一覧とか分かりやすくなっているものがあればと思います。一旦、預からさせていただきます。

〇校長
　事務連絡については、サイズが揃っていても良いのかなと思います。
　その他のものについては、色々なサイズがあっても良いのかなと考えております。

〇委員
　お知らせです。ねりま地域文庫読書サークル連絡会主催の講演会が9月11日（日）に練馬区立生涯学習センターのホールで開催されます。チラシを配布いたしますので、ぜひご参加ください。

〇委員
　8月13日（土）、14日（日）に本の探検ラリーを平和台図書館で開催します。
　ぜひご参加ください。

〇事務局
　第11期の第４回の会議は、令和4年11月前後に開催する予定です。目標２「小中学生の読書活動の推進」を議題とする予定です。日程調整を行ったうえで正式な日程が決まり次第、開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

〇座長
　それでは、第11期第三回練馬区子ども読書活動推進会議を終了いたします。ありがとうございました。